

3-2 令和4年度 学校評価の結果

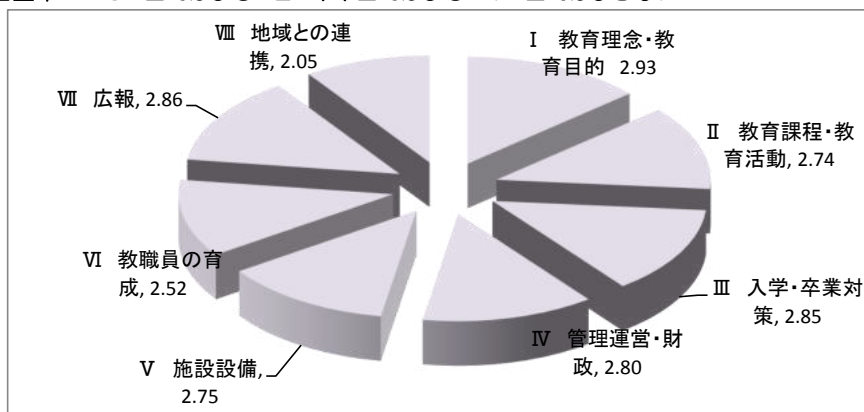
1. 令和4年度自己点検・自己評価結果

I 教育理念・教育目的	2.93
II 教育課程・教育活動	2.74
III 入学・卒業対策	2.85
IV 管理運営・財政	2.80
V 施設設備	2.75
VI 教職員の育成	2.52
VII 広報	2.86
VIII 地域との連携	2.05

○ 実施時期 : 令和4年4月～3月実施

○ 対象者 : 教職員14名

評価基準 3: 当てはまる 2: やや当てはまる 1: 当てはまらない



I 教育理念・教育目的	JA福島厚生連の理念を踏まえ、地域に貢献できる看護師の育成が明示されている。また、新カリキュラムとなり、より本校の特徴を教育理念、教育目的に示すことが出来た。新カリキュラムとなったため、学生たちに浸透しているとはいいがたい。学生に日頃から意識付けを行っていく必要がある。
II 教育課程・教育活動	新カリキュラムとなり、授業内容を理解しやすい科目名に構成された。今年度から新カリキュラムとなったことから授業・実習評価を分析し、課題を明らかにして教育課程の検討をしていく必要がある。コロナ禍で、オンライン授業や学内実習を取り入れた中で、学習環境を整え取り組むことが出来た。また、学生のボランティアやクラブ活動が難しかったが、感染状況に応じた活動を行うことができた。学生の学習に対する支援は教員各自が工夫して行うことができ、学生個々の学力につながった。
III 入学・卒業対策	今年度、入学生の定員を満たすことが出来なかった。18歳人口の減少や医療従事者の職種の多様化により、今後も学生の確保は困難な状況が考えられる。優秀な人材を確保するための広報活動を強化していく必要がある。今年度はコロナ禍で参加人数を制限するなど対策を立てオープンキャンパスを実施することができ、入学生の確保につながった。国家試験対策では、個別指導を強化し学力が低迷する学生の指導を強化することができ、卒業生全員が国家試験合格に導くことが出来た。卒業生対象のカムバックデーの開催は、離職防止につながったと考える。今後も継続していく。
IV 管理運営・財政	コロナ禍の中、学生の心身の管理を行うことが出来た。予算計画、年間計画に沿って遂行できた。
V 施設設備	保健室が物置になっているときがある。コロナ感染対策として学生の休憩室等では三密の回避が難しい。
VI 教職員の育成	コロナ禍であったが学外短期研修および病院・施設現場研修に参加することが出来た。授業参観や公開授業のシステムが企画されている。コロナ対策や新カリキュラムの開始で教員の研究活動は難しかった。
VII 広報	ホームページの更新を随時行うことが出来た。高校訪問や進路説明会など感染状況を確認しながら実施した。地域の貢献は、コロナ禍で難しかったが、年度末に白河消防署主催の災害訓練に学生および教職員が参加するなど可能な限り行うことが出来た。
VIII 地域との連携	海外からの留学生の受け入れ体制は整っていない。国際的な視野を広げる授業は机上のみになっている。